

いわき農林水産ニュース

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース

平成29年7月号(第149号) 発行 7月27日

目次

- ・【特集】地域産業6次化……………p.1
- ・【重点施策】集落営農を推進しています……………p.4
- ・サンシャインいわき物産展開催……………p.5
- ・「あじさい祭り」施設巡りバスツアー開催……………p.5
- ・みずほの森づくりボランティア活動実施……………p.6
- ・ハイテク除草機実演……………p.6
- ・チェーンソー研修会で林業労働災害防止……………p.6
- 〔お知らせ〕
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.7
- ・試験操業の状況……………p.7
- ・イベント情報……………p.8
- ・GAP コーナー……………p.9
- ・6次化商品紹介……………p.9
- ・いわき農林事務所各部業務紹介……………p.10

【特集】地域産業6次化

福島県は、

「地域産業6次化」に取り組む県内事業者を応援します！

「地域産業6次化」とは、福島県の豊かな農林水産資源を活かし、農林水産業（1次）、加工業（2次）、小売・サービス業（3次）の各産業分野が相互に連携・融合しながら、付加価値を向上・創造する取り組みです。福島県では、事業の実施や積極的なPR等、6次化推進への取組みに力を入れてまいります。

1次（生産：農林水産業）×2次（加工）×3次（販売）＝6次産業化

1 農林水産業者の6次化成功事例は？

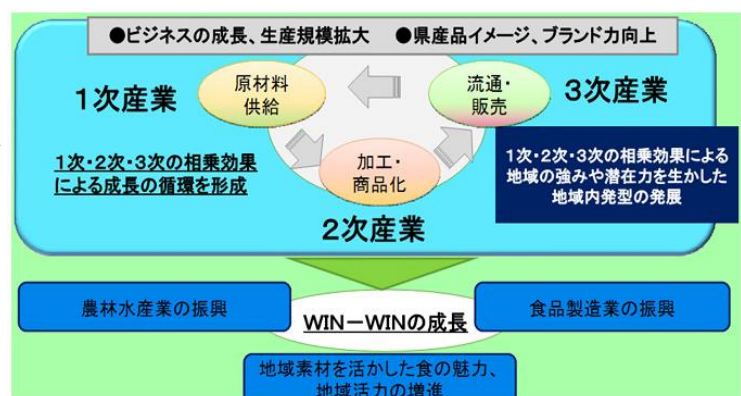
きくらげをどうにか加工販売できないかと思い悩む浜通りの生産者、キムチの新商品開発を考える中通りのキムチ販売店、何か新しい商品の販売を考える会津地方の小売店をマッチングした事例があります。遠距離で交流のなかった方々が連携し、生産業・加工販売業それぞれの知識を共有して完成させたきくらげのキムチを会津で販売し、新商品の展開を成功させました。

2 その他の成功事例は？

- ・商品パッケージをブラッシュアップし（磨きをかけ）てブランド力を向上した事例
- ・日本なしの芯を有効利用して、なし酢ドリンクとして生まれ変わった事例

6次化戦略イメージ

通常結びつくことのない農林水産業、加工業、小売・サービス業が、行政や関係機関のマッチング支援やサポート事業の活用等によって連携・融合し、新たな付加価値を生み出すことを可能とすることが、6次化の特長です。



「平成29年度6次化商品のPRによる通年型風評対策事業」説明会〔7月5日（水）〕

当事業は、県内の農林漁業者や6次化商品を生産する加工業者に対し、次のような支援を行うものです（右図参照）。

①テストマーケティング

（期間・場所を設定・テスト販売）

②商品改良・販路開拓支援

（アピールポイントを見出し、販路を確保）

事業説明会は福島、郡山、会津、いわきの4会場で実施され、合わせて100以上の事業者が出席しました。日本の中小企業を元気づけるトップアドバイザー「(株)生産者直売のれん会」黒川健太社長による講演が行われ、その説得力ある内容に参加事業者からは「ビジネスに関する大きなヒントを得た」との声が聞かれました。

①テストマーケティング

県内テストマーケティング

- ・県内各地の道の駅や物産館における販売・アンケート調査
- ・県内量販店における「6次化フェア」の実施



県外テストマーケティング

- ・首都圏に特設ブースを設置し販売会を実施（東京都内主要ターミナル駅構内やアンテナショップ）

②商品改良・販路開拓支援

商品改良

- ・のれん会によるコンサルティング（商品と販路の組み合わせを検討し、それに合った商品改良を実施する）

販路開拓

- ・首都圏の多様な店舗におけるテスト販売

“のれん会” 黒川社長
「商品だけでなく販路の差別化を」

黒川氏は、価格競争ではなく商品を「ブランド化」することの重要性について説明。販路や商品カテゴリーを吟味し、小さな市場にターゲットを絞って成功した事例を取り上げることによって、ブランド化を達成させるには商品の差別化だけでなく「販路の差別化」が重要であることを繰り返し強調した。



((株)生産者直売のれん会 黒川社長)

<価格競争ではなくブランド力で勝負>

非価格競争

商品そのものを評価してもらうことによって付加価値がつき、一つ一つの利益率が上昇
= ブランドの構築

価格競争

競争で勝つためには価格を下げるしかない
⇒年商に対する利益率が低下するばかり

そのために・・・

<販路の差別化>

小さな市場

他の事業者が販売していない狭い市場（販路や商品カテゴリー）を選択

成功事例

- ・「酒飯店」で販売する「とうふ」
- ・「駅ナカ」販売する「パンの手土産」

大きな市場

多数のライバルがいるため勝ち残るのはほんの一握り
⇒価格競争になってしまう

地域産業6次化イノベーター派遣事業

(ふくしま地域産業6次化サポートセンター)

県内の農林漁業者等が抱える6次化に関する悩みや疑問を解決すべく、商品開発、販売戦略の専門家（イノベーター）を無料で派遣する事業です。「商品開発ってどうすればいいの?」「商品パッケージやネーミングはどのようなものが良い?」「補助金を活用するには?」等々、6次化に関するお悩みがありましたら、ぜひご活用ください。

お問い合わせ

ふくしま地域産業6次化サポートセンター（福島県中小企業団体中央会）

◆TEL 024-533-8031 ◆FAX 024-533-8033

いわき地方ネットワーク会員を随時募集中

(いわき農林事務所)

いわき地方の農林水産物や観光資源を始めとした優れた地域資源を有効に活用した農林水産業の6次産業化や農商工連携などの新たな事業展開に向けて、意見交換や事業パートナーとの出会いの場を提供しております。ぜひ、ご入会ください。

いわき地方ネットワークについて

目的 6次産業化や農商工連携など、農林漁業者、食品加工事業者、流通事業者、販売事業者、観光事業者、地域づくり団体等、多様な主体が連携・融合し、新たな地域産業を創出すること（地域産業6次化）。

会員資格 地域産業6次化に関心と意欲のある個人・団体

会費 無料

活動内容 ○融資制度、補助制度、相談窓口、地域のアドバイザー、研修会等に関する情報を提供（メール会員には、商談会の案内等を優先して送付）
○全県ネットワーク会員との交流や情報交換による新たな事業展開のきっかけづくり 等

入会方法 入会申込書を郵送、FAXまたは電子メールにてご提出ください。
入会申込書は、いわき農林事務所ホームページからダウンロードできます。

→<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/iwnorin-k35047.html>

地域産業6次化窓口のご案内

いわき農林事務所企画部では、6次化窓口として商品開発や各種事業に関するご相談を受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

◆担当 我妻 副担当 松本・作山

◆TEL 0246-24-6152 ◆FAX 0246-24-6196

農用地の利用集積による集落営農を推進しています

1 「集落営農」って？

いわき地域の平成27年度の農業就業人口は5,228名と年々減少傾向にあり、同平均年齢は68.1歳と高齢化も進んでいます。また、経営耕地1ha未満の小規模農家が6割以上を占めています。

今後、経済のグローバル化と激化する産地間競争に対応しながら、持続的な農業生産活動を展開していくための仕組み作りが「集落営農」です。

2 集落営農に取り組むことで

地域農業を牽引する認定農業者の育成確保を基本に、集落の人材や労働力・農地・機械、施設等の資源を有効活用していくことができます。

集落営農の実現に向けては、認定農業者の支援や農地中間管理事業等各種施策の活用が可能です。

3 集落営農の取り組み方

- (1) 多くの人に参加できる話し合いの場を設けて、地域と地域の農業について話し合います。
- (2) 話し合いにより、「人・農地プラン（以下、プラン）」を策定します。プランは地域や地域農業を守り発展させていくため、担い手の確保や農地利用のあり方等、将来の農ビジョンを描いたものです。平成28年度末現在、いわき地域では、16地区でプランが作成されています。
- (3) 「農地中間管理事業」を活用し、担い手への農地利用集積を推進します。農地中間管理事業は、農地中間管理機構が農地の「出し手」と「受け手」の希望をマッチングし、農地貸借を行う事業で、双方と地域に大きなメリットがあります。

4 集落営農とプランの実現

担い手への農地の集積、担い手の組織化や法人化による営農、生産組織への必要な機械・施設等の整備、新規品種の導入等を推進することで、持続的な農業生産活動と地域の活性化を実現します。

集落営農等については、農業振興普及部（0246-24-6162）までお問い合わせください。



（集落座談会の様子）

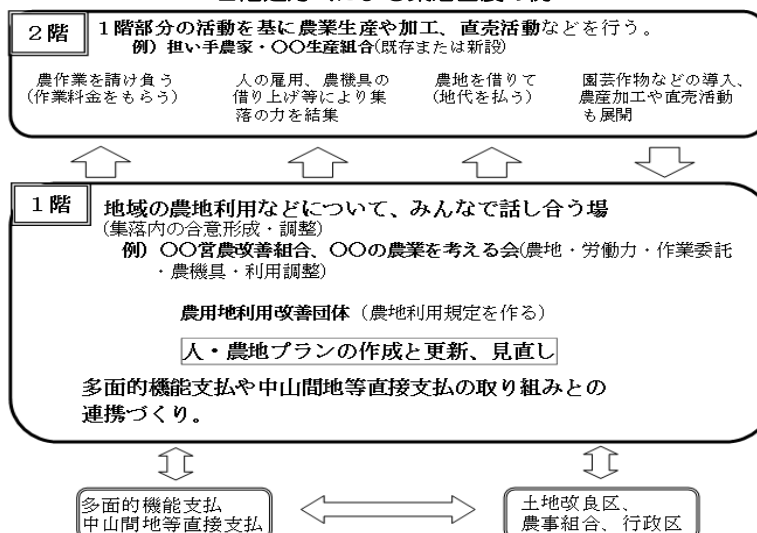
（表1） 地域集積協力金（集積割合に応じて地域に交付）

集積率	H29年度単価
2割超 5割以下	1.5万円/10a
5割超 8割以下	2.1万円/10a
8割超	2.7万円/10a

（表2） 経営転換協力金（農地の出し手へ交付）

機構への貸付面積	交付単価
0.5ha以下	30万円/戸
0.5ha超2ha以下	50万円/戸
2ha超	70万円/戸

2階建方式による集落営農の例



サンシャインいわき物産展開催〔6月24日(土)・25日(日)〕

コラッセふくしま県観光物産館において、「サンシャインいわき物産展～いわきの旬が大集合～」を開催しました。このイベントは、夏を迎えるいわき市の旬の製品の美味しさを県内外の方に再認識してもらい、ファンになってもらうことを目的として、当振興局がいわき市やいわき観光まちづくりビューロー、水産事務所等と連携して開催したものです。



当日は、いわき郷土料理「サンマのポーポー焼き」や「ホッキ飯」などのほか、昨年度に「ふくしまおいしい大賞優秀賞」を受賞した6次化商品や磐城農業高校生が製造した加工品、トマト等の旬の野菜などが販売されました。

また、県漁協女性部による「常磐もの」のメヒカリとヒラメの唐揚げの振る舞いや、アンケート記入者にはいわき農林事務所提供の「Iwaki Laiki」（いわき産コシヒカリ）をプレゼントしました。

来場者からは、「非常に良かったので継続して開催してほしい」、「メヒカリ・ヒラメの唐揚げを初めて食べたが美味しかった」、「あらためていわきの農林水産物の魅力を知った」などといった意見をいただきました。

今後も、市産品の美味しさを多くの人に知ってもらえるよう、関係機関と連携し、県内外におけるPRを積極的に実施してまいります。
(いわき地方振興局)

「あじさい祭り」施設巡りバスツアー開催〔6月30日(金)〕

あいやえすじ

愛谷江筋愛護会（事務局：愛谷堰土地改良区）主催

の「第15回^{じんえもん せき}治右衛門の堰あじさい祭り～愛谷江筋はどこから流れてくるのかな？～施設巡りバスツアー」が開催されました。このイベントは、地域に根ざした農業水利施設である愛谷江筋¹の役割や歴史について知ってもらうため、毎年開催されています。今年は、いわき市立夏井小学校の4年生約20名が参加しました。



(愛谷堰頭首工見学の様子)

児童たちは、夏井川から農業用水を取り入れる施設である頭首工や、水路からゴミを取り除く除じん機、水を機械の力で排出する排水ポンプ場などを見学し、説明を受けている間、懸命にメモを取ったり、積極的に質問をしたりしていました。また、ツアーの最後には、あじさいの咲く江筋沿いの道を、学校までゴミ拾いをして帰りました。児童達は、今回のツアーを通じ、農業に深く興味を持ったようでした。
(農村整備部)

¹江戸時代初期、平藩主の命により三森治右衛門（みもりじんえもん）が6年の歳月をかけ完成させた灌漑用水路。開墾困難であった荒地を田として活用出来るようになり、当時厳しい年貢の徴収に苦しんでいた農民を救ったと伝えられる。

みずほの森づくりボランティア活動実施

〔7月8日(土)〕

みずほフィナンシャルグループは「企業の森づくり協定」に基づき、新舞子海岸に植栽したクロマツ林の下刈りボランティア活動を行いました。この活動は、同グループが「ふくしまの復興」に向け行っている社会貢献活動のひとつで、平成25年に県・市・企業・地元山林共有組合と「企業の森づくり協定」を締結、翌年11月から植樹を始め、翌々年の10月までに約1.4ヘクタール、1万4千本のクロマツを植樹しました。平成27年度からは植樹したクロマツ苗木を守る下刈り活動を実施しています。



(下刈り作業の様子)

当日は県内外から76名の社員が参加し、地元山林共有組合員と一緒に、初夏の強い日差しの中、汗だくになりながら作業していました。この活動は来年度も行われる予定です。(森林林業部)

ハイテク除草機実演

〔6月16日(金)〕

いわき市富津町において新型除草機の実演会が開催されました。この実演会は、株式会社オーレックの協力を得て県が開催したもので、有機栽培に取り組むいわき市内外2団体の農業者約10人が除草機の効果を見学しました。

この除草機は、従来の除草機構では十分な効果が得にくかった「株間」の雑草に対して、新しい除草機構を採用することで、草丈40cm程度までのイネを傷めることなく、高い除草効果を発揮します。

参加した農業者らは、株間及び条間から除去された水面に浮かび上がる雑草を見て、その効果に感心していました。



(除草作業を見守る参加者)

(農業振興普及部)

チェーンソー研修会で林業労働災害防止

〔6月22日(木)〕

森林整備の推進と林業労働災害防止に向け、磐城流域いわき地区林業活性化センター主催による「チェーンソー伐木造材技術研修会」が田人町で行われました。

林業の伐採業務は労働災害の発生率が高く、またその6割以上がチェーンソー作業中に起きており、状況判断を正しく認識し処理する技術を習得することが求められるため、林業事業体の若手等従事者を現場指導する方々の参加のもと、青森市在住の林材業安全技能師範・小田桐久一郎講師を招き、ミスのリカバリーすることの重要性と心構えや様々な伐り方を教わりました。また、実技研修では正確なチェーンソー操作の指導法など実践いただき大変有意義な研修会となりました。



(小田桐講師による伐倒作業の様子)

(森林林業部)

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成29年6月分）

□ 農林畜産物の検査結果

検査した10品目25検体すべてにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした（内訳：表1）。また、出荷制限状況は（表2）のとおりです。（企画部）

（表1）1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

葉ネギ(施設) 1、ニラ 1、タマネギ 1、ウメ 2、はちみつ 1、菌床しいたけ(施設) 5、菌床なめこ(施設) 2、うわばみそう(野生) 3、牛肉 5、原乳 4

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（6月末現在）

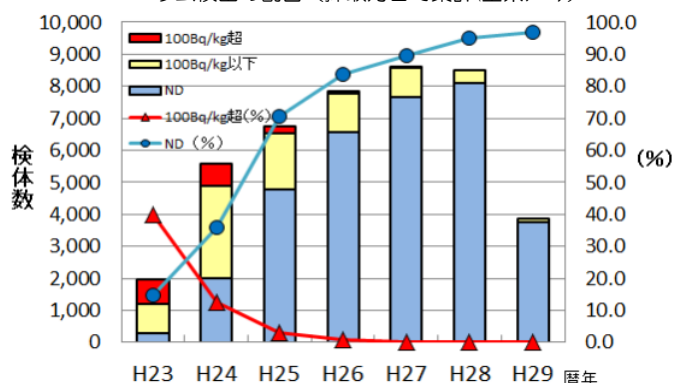
制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

□ 海産魚介類の検査結果

199検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値(100Bq/kg)を超えたものではありませんでした。

海産魚介類では平成27年4月以降、全県で基準値を超えたものではありません。平成28年5月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合が95%を超え、平成29年6月はND割合が96.7%となっています（H29.6.10現在）。（水産事務所）

（グラフ）平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合（採取月日で集計(全県データ)）



試験操業の状況

6月29日に開催された第3回県下漁業協同組合長会議において、相双漁協から、新たにサワラ流し網漁とシラス船びき網漁を東電福島第一原発の半径10～20km圏内海域で操業することが報告されました。

これにより、同海域で操業可能となった漁業種類は、船びき網漁（コウナゴ、シラス）、サワラ流し網漁の2種類となりました。（水産事務所）

（表）地区別試験操業計画一覧

漁業種類	試験操業計画名称	地区別実施状況	
		相双	いわき
底びき網	底びき網漁業	○	○
船びき網	機船船びき網漁業(しらうお等)	◎	○
	機船船びき網漁業(さより)	-	○
固定式さし網	固定式さし網漁業	○	○
流し網	マイワシ等 流し網	○	-
	サワラ等 流し網	◎	-
かご	沖合タコカゴ	○	-
	かご漁業	○	○
	はもかご漁業	○	-

漁業種類	試験操業計画名称	地区別実施状況	
		相双	いわき
どう	どう漁業	○	-
採貝	あわび漁業	○	○
	うに漁業	○	○
貝けた網	ホッキ貝桁網漁業	○	○
はえ縄	タラはえ縄漁業	-	○
	はえ縄漁業(タラはえ縄除く)	○	○
釣り	釣り漁業	○	○
養殖	あさり養殖業	○	○
合計		15	12

注：◎は東電原発10～20km圏内海域を含む漁業を指す

イベント情報

いわきのお米「Iwaki Laiki」ごはん学校

FMいわき ベティさんがナビゲートする公開生放送！

- 日時：平成29年7月29日（土）13：00～
- 場所：ヨークベニマル新谷川瀬店 1階フードコート
- 主催：「Iwaki Laiki」戦略ブランド化推進本部 共催：FMいわき

当日午前10時より
座席整理券100枚配布！

「歴史」「家庭科」「理科」の授業と、給食の時間には試食もできます。テストの試験官には、スペシャルゲストとして人気声優の森久保祥太郎さんをお呼びします！テストに答えるともらえるプレゼントもご用意しておりますので、ぜひお越しください。

第22回「四時ダムまつり」

自然豊かな森林やダムが社会生活に果たす役割へ理解を深める「森と湖に親しむ旬間」

- 日時：平成29年7月30日（日）9：30～
- 場所：四時ダム
- 主催：四時ダム流域ダムまつり実行委員会 協賛：福島県治水協会

「森と湖に親しむ旬間（7/20～31）」を盛り上げるイベントとして、よさこいやフラダンス、バンド演奏等のパフォーマンスを企画しています。また、地元団体の食べ物コーナーやボートによるダム湖巡視体験コーナー、お楽しみ抽選会もご用意しております。

「サンシャインいわき盛りだくさんフェスタ2017 in 友部SA」

友部サービスエリアにおいて観光イベントを実施します！

- 日時：平成29年8月26日（土）
- 場所：常磐自動車道 友部サービスエリア（下り）
- 主催：福島県いわき地方振興局

観光 PR ステージ、各種体験コーナーを企画しています。「いわき出張マルシェ」では、トマトや梨などの農産物、いわき産いちごを使ったかき氷等、多くの販売ブースをご用意しております。ぜひ、ご家族そろっておいでください。

「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」（予告）

首都圏の大学生にいわきの「今」を見ていただきます。親戚やお知り合いに、ぜひお声がけください。多くの参加者をお待ちしております。

- 日時：平成29年10月14日（土）・21日（土）
- 場所：いわき市内（東京駅から送迎有）
- 主催：いわき農林事務所 等

トピック

県産農林水産物の 新CMを発表！

7月22日に、県産農産物の魅力と安全性を伝えるテレビCMの発表会が東京国際フォーラムで内堀知事や人気グループTOKIOの城島さんらにより行われました。

新CMは7月25日から首都圏や県内で放映されます。



（内堀知事の挨拶）



（県内の農家の方々も参加）

GAP 認証取得事例紹介 ～大野水耕生産組合～

今年3月にJGAP 認証を取得した大野水耕生産組合の専務理事の青木浩一氏にお話を伺いました。

GAP 認証取得への経過としては、①研修会への参加・GAPへの理解、②起こりうるリスクに対する改善策の考案、③マニュアル作成、④マニュアルに基づく自己評価⑤審査員による認証審査と実施していき、約10か月をかけてGAP認証を取得しました。



(大野水耕生産組合 青木専務)

<GAP導入による主な改善点>

- ・張り紙等による従業員への徹底周知(組織への理解や体調管理等)
 - ・毎日の作業日誌記録による従業員の労働管理の徹底
 - ・出荷資材・肥料の間に異物混入を防ぐ仕切りの設置
 - ・残留農薬処理方法や廃棄処理方法についての手順作成
- ...etc.



←仕切りを設置し、出荷資材への異物混入を防ぐ

GAP導入後には、従業員の意識統一が見られるようになったといいます。青木氏は、「GAPは特別なことではなく、安心安全な農産物を提供するために必要な、『あたりまえ』の措置について実施し、記録することです。一つ一つの『あたりまえ』を確実に行うことが農産物への自信につながるのだと思います」と語りました。簡単なようですが、あたりまえのことを普段から徹底してこなすことは非常に重要です。GAP導入をきっかけに安心安全な生産現場を実現し、自信を持って農産物をPR出来る環境を作ってみてはいかがでしょうか。

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された6次化商品をご紹介します！



代表取締役 田中さん

(株)たふいあでは、いわき市産こしひかりの米粉を使った様々な商品を販売しております。そのなかから今回は、夏にぴったりな商品2つをご紹介します。

「サラダ米麺」は、トマト、ほうれん草、カボチャを練り込んだ米麺で、食物繊維が含まれ食感が良く、サラダ麺や冷やし中華に相性抜群です。「米粉でとろ〜りハヤシライスルゥ」は、後味軽く、夏バテで食欲が出ない方にもおすすめです。(株)たふいあの各商品は、道の駅よつくら港、ワンダーファーム、ハワイアンズ、五浦庭園カントリークラブ、ネット通販でもお買い求めいただけます。是非ご賞味ください。

お問い合わせ

株式会社たふいあ
所在地：いわき市好間町上好間字大畑 100
TEL0246-68-8591
Webhttp://www.wara-eat.com

サラダ米麺セット



●内容量 / 麺:120g×3・つゆ:30g×3 ●価格 / 722円(税抜)
米麺に3種の野菜を練り込んだグルテンフリー、保存料無添加の彩りよいお弁当セット、ゆで時間が短く大変手軽です。一品足りないときに残り野菜と一緒にどうぞ。

米粉でとろ〜りハヤシライスルゥ



●内容量 / 120g ●価格 / 450円(税抜)
米粉でとろみをつけた使いやすいフレックタイプのルゥです。動物性原料や化学調味料無添加で、ソテーしたトマトを添えるとより豊らしくさっぱりとした味わいに。

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

本コーナーでは、いわき農林事務所の各部の業務を紹介してまいります。今回は、農村整備部を紹介します。

農村整備部では、東日本大震災の津波により被害を受けた沿岸部の農地について、ほ場の大区画化による農業生産性の向上と担い手への農地集積を図ることにより、被災した農村地域の復興を目指しております。平成 29 年春時点における営農再開の進捗率は 81% であり、平成 30 年春には、計画の 1 年前倒しで全ての農地で営農再開が可能となる見込みです。

また、地盤沈下等による排水不良が著しい沿岸部農地の湛水被害防止解消のための排水機場整備や収穫した農産物の市場等への効率的な運搬のための基幹農道整備も実施しており、いわきの地域振興のため職員一丸となって事業を進めております。

農業農村の基盤整備についてお困りの方は、下記連絡先までお気軽にご相談ください。

農村整備部の主な業務

- 1 東日本大震災で被災した農地の復旧、大区画化、基盤整備
- 2 農村地域の基幹となる農道の整備
- 3 水路、排水機場等の農業基幹水利施設の適切な更新
- 4 農業農村整備事業に係る用地取得、登記補償
- 5 農業農村整備事業で造成した財産管理
- 6 砂利採取法の指導、監督



復興基盤総合整備事業により営農再開された農地（夏井地区）



いわき農林事務所

キャッチフレーズ

このキャッチフレーズには、「燦々と降り注ぐいわきの太陽の光のように、農林業に携わるすべての人に、一日でも早く真の笑顔があふれるよう、所員が一丸となってスピード感と緊張感を持って目に見える成果を求めていく」という思いを込めています。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース